

2018（平成30）年度 予算概要の説明

本学は、中期マスタープランに掲げる運営ビジョンの「首都圏文系大学で期待・信頼・満足度No1を目指す」の実現に向けて活動しています。そのために、2018年度から2020年度まで第3次キャンパス整備事業を実施します。これは、地域創生学部の創設や、今後控える人間学部・表現学部の改組を始めとした教育改革に加え、組織的な学習支援システムの構築等、様々な施策を実施することに伴い、教室や図書館、ラーニングコモンズ等の学生の学修スペースの確保が重要になるため、8号館礼拝堂の改築を行います。

そこで、2018年度当初予算は、教育・研究環境の充実を図りつつ、改築費等のハード面の財源確保をした予算編成を行いました。

◎2018年度の主な支出

<8号館改築に伴う予算措置>

現8号館の解体工事費2億円、改築工事に係る着工時金12億円を計上しました。

<情報基盤整備に係る特別予算>

情報基盤整備に伴うネットワーク構築に要する予算6,500万円を計上しました。これは、ネットワーク回線をSINET5に変更したことに伴い2017年度から2019年度まで段階的に発生する予算措置です。

◎2018年度単年度の収支見込み

収入面では、学生生徒等納付金収入増及び入学検定料収入増の予測などにより事業活動収入は65億6,612万8,000円（前年度比2億7,413万1,000円増）の見込みです。

支出面では、経常経費について2017年度補正予算額をベースに厳格に査定を行いました。8号館改築に伴い、現8号館の帳簿上の残存価格（2億3,000万円）を特別支出に計上したため、事業活動支出は64億1,680万918円（前年度比2億5,396万9,206円増）の見込みです。

以上の結果、2018年度の収支状況（基本金組入前当年度収支差額）は、1億4,932万7,082円の収入超過の見込みです。

1. 資金収入の概要

資金収支予算書は、当該年度の法人全体の諸活動に係るすべての資金の動きの状況を表すものです。

収入の部には、「学生生徒等納付金収入」、「手数料収入」、「寄付金収入」、「補助金収入」、「資産売却収入」、「付随事業・収益事業収入」、「受取利息・配当金収入」、「雑収入」といった法人に帰属する収入のほか、「借入金等収入」、次年度入学生の学費等の「前受金収入」、特定資産からの繰入収入や前年度未収入金収入などの「その他の収入」等が計上されます。

支出の部には、「人件費支出」、「教育研究経費支出」、「管理経費支出」、「借入金等利息支出」といった経費のほか、「借入金等返済支出」、土地購入・建物建築等の「施設関係支出」、機器備品・図書購入の「設備関係支出」等が計上されます。

以下、主な収入、支出について説明します。

- i) 学生生徒等納付金収入 52 億 5,732 万 3,000 円 (前年度比 1 億 2,315 万円増)
 授業料は 2016 年度開設の地域創生学科の年次進行に伴う増額。また、教育充実費は 2015 年度新入生から適用し、2018 年度まで年次進行に伴い増額です。
- ii) 手数料収入 1 億 8,148 万円 (前年度比 3,184 万円増)
 2018 年度入試の検定料収入の状況を踏まえて、入学検定料収入を 1 億 7,000 万円 (前年度比 3,086 万円増) と見込みました。
- iii) 寄付金収入 3 億 7,024 万円 (前年度比 5,932 万円増)
 主な寄付金の内訳は以下の通りです。
- | | |
|---|--------------|
| 設立宗団 (天台宗・浄土宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・時宗) からの運営支援 | 2 億 1,000 万円 |
| 株ティール・マップからの教育活動支援金 | 7,000 万円 |
| 教育・学生生活支援資金 (在校生父母や同窓生からの寄付) | 2,000 万円 |
| (仮称) 人材育成基金 (同窓生や一般企業からの寄付) | 3,000 万円 |
| 大正大学父母会からの寄付金 | 2,200 万円 |
| 課外活動団体同窓生からの寄付金 | 800 万円 |
| 浄土宗子弟教育支援金 | 500 万円 |
- iv) 補助金収入 5 億 1,222 万円 (前年度比 1,099 万 2,000 円増)
 国庫補助金は、文部科学省経常費補助金 4 億 8,500 万円、内閣府補助金 2,500 万円の見込みです。
- v) 付随事業・収益事業収入 2,647 万円 (前年度比 272 万 6,000 円減)
 補助活動収入は、出版物の販売収入や野球部合宿所寮費収入など。
 附属事業収入は、総合仏教研究所・カウンセリング研究所の附属研究所からの収入。
 受託事業収入は、地方自治体や企業からの委託研究に伴う収入。
- vi) 受取利息・配当金収入 1 億 2,693 万 6,000 円 (前年度比 2,180 万 2,000 円増)
- vii) 雑収入 9,145 万 9,000 円 (前年度比 2,975 万 3,000 円減)
 施設設備利用料収入は、教室の外部借用に係る収入が主なものです。
 私立大学退職金財団交付金収入は、退職金支出に伴う私立大学退職金財団交付金です。
 その他の雑収入の内訳は、科学研究費補助金に伴う間接経費が主なものです。
- viii) 前受金収入 13 億円 (前年度同額)
 主に、2018 年度末に収入が見込まれる 2019 年度新入生の学生生徒等納付金です。
- ix) その他の収入 3 億 8,302 万円 (前年度比 12 億 1,852 万 8,689 円減)
 8 号館改築資金として大学整備引当特定資産で満期を迎える 2 億円を受け入れます。
 鴨台会基金引当特定資産で満期を迎える資産の再運用のために 6,000 万円を受け入れます。
- x) 資金収入調整勘定 14 億 2,000 万円 (前年度比 616 万 3,000 円増)
 期末未収入金 (2018 年度の収入で年度末までに未収入が予想されるもの)
 前期末前受金 (2017 年度末に入学手続きする 2018 年度新入生の学生生徒等納付金)

2. 資金支出の概要

i) 人件費支出 32 億 3,232 万 1,495 円 (前年度比 9,433 万 8,620 円増)

専任教員は、退職専任教員 10 名に対して 11 名を採用。加えて、地域創生学部教員を設置計画に基づき 3 名新たに採用。

専任職員は、退職専任職員 6 名に対して 3 名採用。

嘱託職員 (実習担当・綜仏・助手・副手) 退職者 13 名に対して 12 名採用。

退職金支出は、2018 年度退職予定者 (専任教員 3 名、専任職員 1 名、嘱託職員 9 名) です。

ii) 教育研究経費 17 億 55 万 8,889 円 (前年度比 3,485 万 8,967 円増)

前段で説明したように、経常経費について 2017 年度補正予算額をベースとして、経年の執行状況を踏まえて厳格に査定を行いました。そのため、ほとんどの科目で前年度比支出減の見込みですが、以下の科目は 500 万円以上の支出増の見込みです。

「奨学金支出」は、藤井かよ奨学金支給者増に伴う 380 万円など計上により増額。

「実験実習費」は、表現学部のカメラ等の機器入替 661 万円計上により増額。

「賃借料支出」は、1342 教室パソコンリース料 393 万円、教職員パソコン更改に伴うリース料 218 万円計上により増額。

「委託費」は、情報基盤整備に伴うネットワーク環境整備費として 6,500 万円計上により増額です。

iii) 管理経費 4 億 7,997 万 7,022 円 (前年度比 9,323 万 3,898 円減)

教育研究経費と同様に厳格に査定を行ったため、ほとんどの科目で前年度比支出減の見込みです。

iv) 借入金等利息支出 836 万 9,412 円 (前年度比 32 万 4,996 円減)

施設整備のための朝日信用金庫からの借入に係る支払利息です。

v) 借入金等返済支出 5,000 万円 (前年度同額)

上段に記した朝日信用金庫からの借入に係る元本返済です。

vi) 施設関係支出 14 億 603 万 1,470 円 (前年度比 12 億 678 万 5,786 円増)

建物支出 105 万 4,270 円は、10 号館トイレ改修工事です。

建設仮勘定支出 14 億 497 万 7,200 円の主なものは、現 8 号館解体費用 2 億円、新 8 号館建設着工時金 12 億円です。

vii) 設備関係支出 9,662 万 4,000 円 (前年度比 6,482 万 1,482 円減)

教育研究用機器備品 4,050 万円の主なものは、7 号館 AV 設備更新 4,000 万円です。

viii) 資産運用支出 1 億 8,577 万 8,310 円 (前年度比 26 億 4,854 万 6,950 円減)

各引当資産の受取利息・配当金収入をそれぞれの通帳に振替えるための支出です。

鴨台会基金引当特定資産 6,925 万円は、2018 年度に満期を迎える資産の再運用分 6,000 万円が含まれます。

ix) その他の支出 3 億 2,000 万円 (前年度比 2,461 万 9,049 円増)

前期末未払金支払支出は、2017 年度末に見込まれる未払金です。金額は、2017 年度補

正予算の期末未払金と同額です。

前払金支払支出は、2019年度事業に係る支出を2018年度内に支払う見込み額です。

x) 資金支出調整勘定 3億2,000万円（前年度比 957万7,065円増）

期末未払金は、2018年度末に見込まれる未払金です。

前期末前払金は、2018年度事業に係る支出を2017年度内に支払う見込み額です。金額は、2017年度補正予算の前払金支払支出と同額です。

3. 事業活動収支の概要

事業活動収支計算書は、施設関係支出（建物の建築費など）や設備関係支出（機器備品・図書等の購入）の資本的支出や第3号基本金充当する額を控除した事業活動収入（負債としない収入）と事業活動支出の収支状況を表し、単年度の経営状況を示すものです。

資金収支予算書との違いは、収入では、借入金等収入、前受金収入、その他の収入が除かれます。支出では、借入金等返済支出（元本分）、施設関係支出、設備関係支出、資産運用支出、その他の支出が除かれます。

なお、資金収支予算書には計上されない退職給与引当金繰入額や減価償却額、資産処分差額等が計上されます。教育研究経費・管理経費共に資金収支予算書より金額が大きくなっているのは減価償却額がそれぞれ計上されているためです。

【基本金組入額】

施設関係支出、設備関係支出及び第3号基本金引当特定資産繰入支出の合計額 15億2,940万6,470円です。

【基本金組入前当年度収支差額】

2018年度の事業活動の収支状況を示す金額です。1億4,932万7,082円の収入超過見込みです。

【当年度収支差額】

2018年度単年度の収支状況を示す金額で、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引く数式で算出します。13億8,007万9,388円の支出超過見込みです。

【主な財務比率について】

事業活動収支上の財務比率は以下の通りです。（ ）は全国平均（2017年度版「今日の私学財政」5ヵ年連続財務比率表（医歯系大学を除く）—大学部門—）の2016年度決算ベースの比率です。

人件費比率	49.7% (50.4%)
教育研究経費比率	35.3% (35.0%)
管理経費比率	8.4% (7.5%)

以上